



木もれびの森の樹木

— アオキ (ガリア科またはミズキ科アオキ属) —

木枯らしが吹く寒さの中でも、うだるような暑さの中でも、いつも青々と葉を茂らせて元気いっぱいのアオキです。森の中に入って子供たちに「赤い実を見つけよう」と声をかけると、必ず探し出してくるのはアオキの実です。楕円形のやや大ぶりのその実は赤く輝いています。緑を背景にした赤い実は補色効果によって野鳥も見つけやすいようで、アオキの実をヒヨドリが食べるそうですが、他の鳥たちにはあまり人気がないとのこと。



アオキの実

元禄時代、時の将軍綱吉に拝謁したこともあるドイツ人医師ケンペルはアオキの赤い実を気に入り、株を持ち帰りましたがその後その株には実がつかなかったそうです。



雌花



雄花

「アオキにも花が咲くの?」と尋ねられたことがあります。実があるからには無論花が咲きます。4 月はその花を観察する絶好の季節です。見たことないという方、是非今年は観察してください。低木なので、すぐ目の前で見ることができます。雄花は紫褐色の花弁 4 枚に黄色い雄しべが 4 個、雌花は同じような花弁に緑色の雌しべが 1 個ついています。雌雄別株ですから、雌花だけ咲く雌木と雄花だけの雄木があります。きっとケンペルが持ち帰ったのは雌木だったのですね。その 170 年後の幕末期、今度は英国人植物学者フォーチュンが来日して、アオキの雄木を探し求めたそうです。美しい赤い実にこだわりがあったのでしょうか。こういう話を聞くと時空を超えたロマンを感じます。学名の *Aucuba japonica* Thunb. は「日本の青き葉」に由来すると聞けば、またなにやら誇らしくも思います。(鳥飼)

木もれびの森の薬用植物 (1)

— コブシ(モクレン科モクレン属)—

今号より、木もれびの森の薬用植物をご紹介します。

春一番に白い花をつける樹木の**コブシ**ですが、その名前の由来には、「蕾が拳に似ている」とする説と、「果実の形が子供の拳に似ている」とする説があります。コブシの漢字の和名は「辛夷」または「拳」ですが、辛夷は中国ではハクモクレンのことを指します。これは、中国ではハクモクレンの蕾を生薬「辛夷(シンイ)」として使用していましたが、日本にはハクモクレンが分布していないため、その代用品として、日本に分布するコブシを生薬「辛夷」として用いたことに由来します。





生薬の辛夷は、現在日本国内では「日本薬局方」という法律で、「シンイはタムシバ、コブシ、*Magnolia biondii* Pampanini, *M. sprengeri* Pampanini 又はハクモクレンのつぼみ」と規定されています。生薬とは植物などの材料を規定された製法で作ったもので、生薬の辛夷には鎮静、鎮痛、排膿作用があり、辛夷清肺湯などの漢方処方に使用されます。

したがって、植物名の辛夷はコブシですが、生薬名の辛夷はコブシ、ハクモクレン両方を指しています。生薬の原材料の植物を基原植物(学術用語)と言いますが、それらを正確に記載するにはラテン語の学名表記が必要です。(川村)

木もれびの森に咲く貴重種植物

—— アマナ(甘菜) ——

近年は地球温暖化のせいですが“春が来た”と思いきや“真冬の寒さに戻り”寒暖の差が激しく体がついて行けません。今年も暖冬だったようで梅の開花が各地で1週刊くらい早かったようです。サクラの開花も早いのではないのでしょうか。

今回は「アマナ」をとりあげます。アマナと名が付く植物は何種類かありますが、こもれびの森にも2種類(アマナ&オオアマナ)あります。アマナは数が少なく貴重な植物です。オオアマナ(別名ベツレヘムの星)は可愛い花ですがこもれびの森では外来種の為、抜かれて数が少なくなっています。



アマナ(別名ムギクワイ)

・ユリ科・多年草・球根(鱗茎)

花期-3~4月・花茎(15~20cm)、花は白色で1個咲き、赤い筋がある。

分布-本州(福島県以南)・四国・九州

葉(長さ15~25cm、幅5~10mm)は細長くニラのような葉で白っぽい色をしています(花はハナニラに似る)。白っぽい葉は3月半ば頃から枯葉の間からまっすぐ立ち上がり、によきによき生えていますので見つけられると思います。葉が2枚にならないと花は咲きません。

こもれびの森にも何か所かありますが花を付けるのはほんのわずかです。こもれびの森では日が当たらないから花芽がつかないのでしょうか? 花は普通1個ですが時には3個つけることもあるそうです。

花は上向きに咲き晴れている日は花が開き、曇りの日には花が閉じています。種子から芽生えて何年かは葉が1枚です。2枚の葉に

ならないとカタクリ同様花芽をつけません。木々の葉が生い茂る初夏のころには地上から姿を消します。

地方によっては絶滅危惧種に指定されている県があるほど貴重な植物です。

名の由来は球根を煮て食べると“甘く、な”は菜で野菜です。それで“アマナ”と言う名がついたそうです。(田崎)